

横浜市立桜台小学校 令和3年度 学力向上アクションプラン

1 中期学校経営方針

(1) 学校教育目標と教育課程全体で育成を目指す資質・能力

学校教育目標	教育課程全体で育成を目指す資質・能力
「自分の思いや願いを実現しようとする子」	<問題発見・解決能力> <言語能力> <自分づくりに関する力>

(2) 中期取組目標

中期取組目標
児童、教職員、保護者、地域住民など、そこに関わるすべての人々が、共に学び合い高め合う学校を目指します。 ○子どもたちが自分の好きなこと、本当にやりたいことを見つけ、自分たちの力で解決していくための、学びの場や時間を保証します。(解決) ○子どもたちが生命・健康・個性を大切にし、自分らしさを発揮できるようにします。(個性) ○子どもたちが互いのよさや、可能性を認め合えるようにします。(共生)

(3) 学力向上に向けた重点取組分野・具体的取組

重点取組分野	具体的取組
生きて はたらく知	授業力の3要素「児童の実態把握力」「教材研究及び開発力」「教育技術力」を向上させ、魅力ある授業・分かる授業を実践する。教科担任制やチームティーチングを効果的に取り入れ、基礎・基本の定着を基盤として「進んで学び、学びを深め、学びを活かす子ども」の育成に励む。
担当 学力形成部会	

2 横浜市学力・学習状況調査等からの実態把握

左: 令和元年度 全児童 (学力向上) | 右: 平成30年度 全児童 (学力向上)

(1) 学力の概要と要因の分析

教科によって多少の差はあるが、全体的に平均よりも高い学力を身につけることができている。学習意識が教科によって差が出ている。基礎・基本の定着が図られ、少しずつ学力が伸びていることが考えられる。

(2) 経年変化の状況と要因の分析 (学習・生活意識調査も含めて分析)

国語の学力が平成30年度に比べて令和元年度は伸びている。学習意識もあり、国語のおもしろさを感じながら学習している様子が見られる。社会の学習意識が向上していて、全体として社会そのものの楽しさや大切さ、できる楽しさを感じられるようになってきていると考えられる。算数と理科の学力はほぼ横ばいではあるが、学習意識の向上に差があり、30年度は理科や家庭科の専科の良さが発揮されたと考えられる。算数の学習意識の向上については、中学年で取り組む少人数制で算数の楽しさやおもしろさを伝えていきたいと考えている。全体として市の平均値を超えている状況は続いている。

生活意識もほぼ横ばいで、学力に比べれば低い様子が見られる。家庭の状況も様々であることが考えられる。

3 令和3年度 学年・教科等として育成を目指す具体的な資質・能力と具体的取組

	育成を目指す 具体化した資質・能力	具体的取組
1年	○基本的な生活習慣をつくる態度 ○主体性・積極性	○学校生活において様々な役割が必要な事を知り、責任をもってその役割を果たすことができるようにする。 ○興味をもって学習に取り組み、意欲的に授業に参加できるようにする。
2年		○学校の生活リズムにも慣れたところで、時間や場面に合わせて気持ちを切り替え、授業や活動ができるようにする。 ○提示された課題に対し、自分の経験や知識と関連づけて考えたり、友達と意見交換をする中で新しい考えを思いついたりして、意欲的に授業に参加できるようにする。
3年	○他者を理解する態度・自己を理解する姿勢 ○自分らしさを発揮しようとする姿勢	○基礎基本の定着を図り、自信をもって学習に取り組めるよう指導していく。算数は少人数制授業を取り入れ、個に応じたきめ細かい指導を行う。 ○自分の思いをもち表現すること、相手の思いを受け止めることを大切にし、進んで考え、課題を解決していこうとする姿勢を育てていく。
4年		○基礎基本の定着に努める。繰り返し漢字や計算に取り組むことで、自信をもって学習に取り組めるようにする。特に算数は、少人数制を取り入れ、子どもたち一人ひとりの取り組みを細かく見取っていきたい。基礎となる部分の反復学習を行い、既習事項を活用して課題解決していく力を高められるよう指導する。 ○友達の話聞くことを大切にし、ただ言葉を聞き取るだけでなく、意図や思いを聞くことができるように、聞き方の指導を行う。
5年	○学校生活へ参画する姿勢 ○つながりを考え、合意形成する姿勢	○ペア、グループ、全体と形を変えていきながら、互いの考えを共有する場面を大切にしていきたい。「書く」力に課題が見られるので、日記や自主学習の取組を通じて、主語と述語のつながりに気を付けて簡潔に書くことを指導していく。 ○算数に対し苦手意識がやや高いため、主体的に学習に取り組めるように導入から問題の提示のしかたなどに工夫を取り入れ、意欲的に学習ができるようにしていきたい。
6年		○基礎基本の定着を図りながら、自らの課題を自分で見つけ、主体的にとらえ、その課題解決のためによりよい学習方法を探して解決しようとする授業づくりをする。 ○目的や意図に応じて、自分の考えが分かりやすく伝わるよう表現を工夫できるようにする。また、考えを共有することで、互いの考えを比較し、考えを広げていけるように、話し合いの場を意図的に設定する。
個別支援学級	○基本的な生活習慣をつくる態度	○個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づき、発達段階に応じた適切なコミュニケーション手段を積極的に活用する場を設けるようにする。 ○教科・領域を通して、話の聞き方について指導するとともに、基本的な話型や文型を示し、表現する場面を計画的に設ける。